

このしまのやしろ
木鳥社は太秦うづまさのひがし森の中にあり。天照御魂神てらすみむすびのかみを祭る、瓊々杵尊にぎのみこと大己貴あなむちのみこと命は左右に坐す。蚕養社こがひのやしろは本社このしまのやしろのひが

しにあり、糸わた絹を商ふ人此社を敬す。西の傍に清泉あり。「世の人元糺もとたゞすといふ、名義は詳ならず。中に三ツ組合の木柱の鳥井あり、老人の安坐する姿を表せしとぞ。当所社司しゃしの説」石鳥居いしのとりゐ「八角の柱なり、森の入口にあり」例祭は九月廿一日なり。「蚕養神事は三月十一日、名越のはらひは六月卅日」

拾遺 水もなく舟もかよはぬ木の島にいかでかあまのなまめかるらん すけ見

〔文保三年四月、覚士伊時遊仙窟かくしを伝授せざる事を深く愁歎して此社に詣す。林中に草を結し老翁あり、常にこれを誦

伊時これときこゝに至りて相伝し、一帙を読畢る。後酬恩のため珍宝を送るに、かつて庵なし。是当社の応現なりとぞ〕